



逆瀬川 あゆみだより

NO. 220 2025. 10
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

9月の中旬から、やっと秋らしい空模様や風を感じることができるようになりましたね。過ごしやすいこの時期が少しでも長く続くことを願うばかりです。

先日、保育通信という雑誌に柴田愛子著「愛子さんの子育てお悩み相談」について少し記載があり、興味をもったので、その本を読みました。半世紀以上も保育と関わってきた著者が、現代のリアルな子育ての悩みに答えているもので、子育て中の方だけでなく、子ども理解についても学べる内容でした。お悩みの事例に対してコメントがあるので、とてもわかりやすく、読んでいて「ふむふむ・・・」と納得！遠い昔の話になりますが、自分の子育て時代とリンクする部分と、今、この年齢になって感じることの両面から思うところがありました。お悩みの例にも似たような内容があったのですが、我が子も3歳児くらいまで、友だちと集まる場所に行っても、私のそばからまったく離れようとせず、私の後ろに隠れていたり、泣いていたり・・・一人でごっこ遊びばかりの時期がありました。「コミュニケーションが苦手？」と気にしていた自分をふっと思い出しました。大きくなってからの娘は、「あの時の心配はなんだった？」と思うくらいです。(笑)

著書の中に子どもの「やりたい」は「大きくなりたい」ということとありました。子どもをよく見て、こう感じているのではないかと察して、子どもの気持ちをそのまま受け止めるだけですとあります。たとえば、朝食にパンと用意したのに、子どもが「え～、パンかぁ。焼きそばがよかった」と言ったとします。じゃあ、仕方ないから作ってあげようというのは、要求に答えているのであって、寄り添うとは違います。「残念だったね」が寄り添う言葉です。この例は、日常の中に溢れているのではないのでしょうか。私も孫に対して、ありがちな・・・とはっと、させられました。まったくいけないというわけではないと思いますが、大人が心に止めておくことは大切かもしれませんね。

こんなふうに心がけて日々を送っていると、子どもの様々な表情が雄弁なことに気づきます。子どもの感性の豊かさ、子ども達のドラマ、魅力がどんどん見えて、きっと子育てが楽しくなるのではないのでしょうか。

心の発達も、遊びを通して他の子どもと関わる、物の取り合いを通して人の気持ちに気づく・・・心のコミュニケーションを取りながらつながり、やがて自分をコントロールできるようになっていくのです。子どもの心に寄り添うは、年齢にあった「やりたい」と保障し、子どもの遊びや関わりを見守ることで、その子が納得しながら成長していくのを保障することでもあるのです。もちろん、大人として、見守っている場合ではないこともありますし、感情的に許せないこともあるでしょう。でも、大人が子どもを作っているのではないこと、大人の影響を受けながら、子ども自身が自ら育っているということを理解していきたいですね。

辻田 紀子

🍇 お知らせ りす組 戸田絃葉さん 戸田伊織さんが9月末で退園になります。お元気で❀❀

トライアルで保育士体験に来て下さった光が丘中学校の学生さんが、最終日にひつじぐみのお部屋で子ども達に影あてクイズをしてくれました。りすぐみもうさぎぐみも参加しました。傘の形を黒のクレヨンで描かれた画用紙を見せると子どもたちは一斉に「かさー！」と自信満々で答えていました。ブドウの影もすぐにわかり「ぶどう〜！」と大喜びでした。なぞなぞもあったのですが、「れいそうこにかくれている動物はなんですか？」の問題はみんな一生懸命考えて・・・ひつじぐみの子どもが「あ！そう！」って。大正解！！楽しみました。9/29～は宝梅中の生徒さんのトライやるウィークです。

10月の予定

礼拝 6日 14日 20日 27日

遠足（ひつじ組）24日

遠足予備日 28日

ひよこ組 個人懇談

りす組 保育参観

※11月の予定について

収穫感謝祭・・・11月4・5日

芋煮会・・・6日

～うさぎ組 個人面談～

30分という短い時間でしたが、面談参加のための日程調整、ありがとうございました。

10月は、ひよこ組の個人面談、また、りす組の保育参観を予定しています。

りす組の参観は、是非、お子さんに見つからないように、ご注意を！

～引き渡し訓練～

ご参加、ご協力ありがとうございました。引き渡しをする際、緊急時児童引渡し確認票に記載されていない方にはお子様をお渡しできません。ご了承ください。



お誕生日おめでとう



4名のおともだち
すくすくおおきくなあれ♪

ぶどうの枝として

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」（ヨハネ15：5）

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋



イエス様は、ご自分のことをいろいろな物にたとえられました。そのうちの 하나가、「ぶどうの木」です。教会の猫の額ぐらいの庭に、ぶどうの木が植わっています。枝の先には見事な実が成っていて、鳥が取っていかないように袋が掛けられており、収穫を待っています。ぶどうの枝と言っても、蔓^{つる}のような細いものです。ぶどうの枝は、観賞用にも建築材料にもなりません。ぶどうの枝の使命は、実を結ぶことです。ぶどうの枝が実を結ぶための条件は、ぶどうの木、すなわち幹にしっかりと繋がっていることです。当然のことですが、ぶどうの枝が幹から離れていたら、実を結ぶことはできません。

同じように、私たちは、イエス様というぶどうの木にしっかりと繋がっていなければ、神様に喜ばれる歩みをなすことはできません。イエス様に繋がるとは、イエス様を信じる、イエス様に信頼するということです。結実のある豊かな人生を送ろうとして自分で頑張るのではなく、イエス様にすべてをお任せするのです。そこから、結実のある豊かな人生が開かれていきます。